

## 路線バスの維持に向けた利用促進策について

みやま市内には JR 瀬高駅から国道 443 号を通過して、山門高校、JA 柳川三橋支所、西鉄柳川駅、京町、伝習館高校、杉森高校、水の郷を経由して、かんぼの宿まで運行している路線バス：瀬高柳川線があり、堀川バスが運行しています。当該路線は、瀬高駅で JR 鹿児島本線と、西鉄柳川駅で西鉄大牟田線と接続しており、市外との移動を支える鉄道へのアクセス手段となっています。路線バスの維持に向けた利用促進策について、令和 2 年度に柳川市と連携して下記のとおり計画しています。

### 記

#### 1、内容

路線バス無料の日の実施

#### 2、目的

路線バスを無料で乗車する機会を設け、乗ったことがない方、乗る機会がなかった方などに利用していただくことで、認知度向上及び継続利用のきっかけをつくり利用促進を目指す。また、コミュニティバスと合わせて実施し相乗効果を高める。

#### 3、対象者

すべての市民及び来街者

#### 4、実施日

令和 2 年度（日程未定）

#### 5、実施方法

- ・堀川バスの瀬高柳川線を二日間に限り無料とする。
- ・柳川市と連携してみやま地域公共交通活性化協議会の事業として実施。

③路線バス

市内にはJR瀬高駅から国道443号を通過して、山門高校、JA柳川三橋支所、西鉄柳川駅、京町、伝習館高校、市役所、杉森高校、水の郷を經由して、かんぼの宿まで運行している路線バス：瀬高柳川線があり、堀川バスが運行しています。

当該路線は、瀬高駅でJR鹿児島本線と、西鉄柳川駅で西鉄天神大牟田線と接続しており、市外との移動を支える鉄道へのアクセス手段となっています。

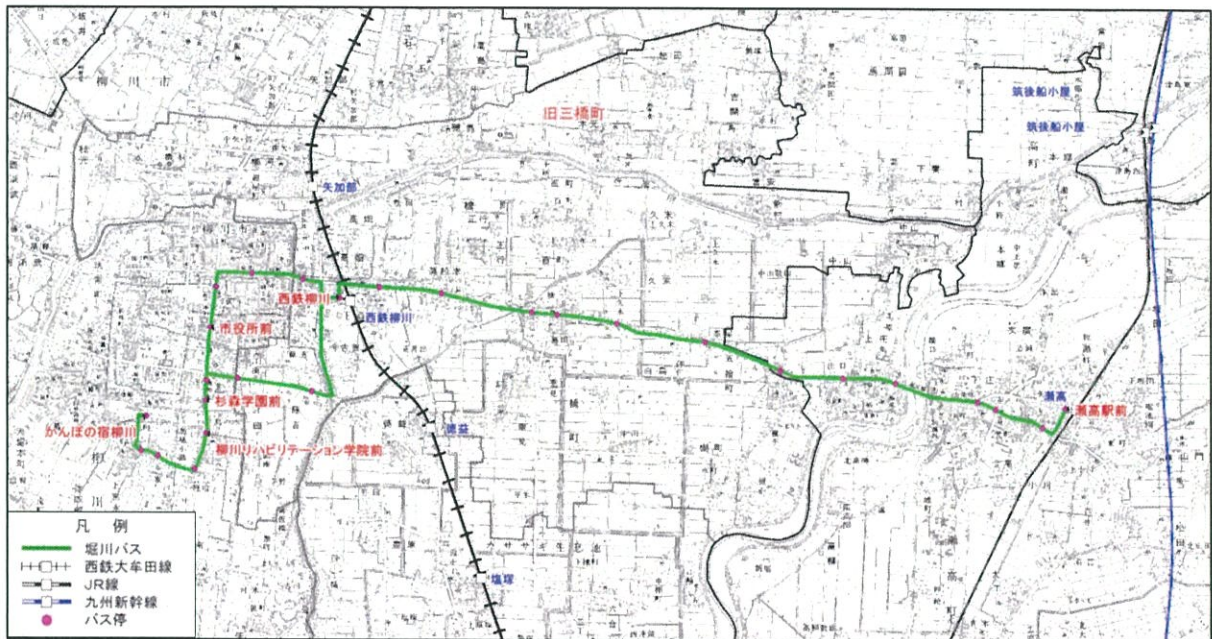


図 瀬高柳川線路線図

表 瀬高柳川線運行本数

	平日		土曜		日祝	
	瀬→柳	柳→瀬	瀬→柳	柳→瀬	瀬→柳	柳→瀬
6時	2		2			
7時	1	2	1	2		
8時	2	2	2	1	2	1
9時	2	2	1	2	1	2
10時	1	2	1	1	1	1
11時	2	1	2	1	2	1
12時	2	2	2	2	1	2
13時	1	1	1	2	1	
14時	1	1	1	1	1	2
15時	2	2	2	1	2	1
16時	2	2	1	1	1	1
17時	2	2	2	2	1	1
18時	2	2	2	2	1	2
19時	2	2	1	1	2	1
20時	1	2		1		1
21時						
22時						
	25	25	21	20	16	16

※便数は起点バス停でカウント

※杉森高校通学便は除く

資料：堀川バスホームページ、平成29年8月26日改正

②路線バス

堀川バスが運行する瀬高柳川線の利用者数は年々減少しており、5年間で約11,000人減少し、平成28年では約11.8万人となっています。

バス停別の利用状況を見ると、最も多いのは西鉄柳川バス停で当該路線の主な目的地となっています。本市内のバス停では、瀬高駅前バス停や山門高校前バス停が多く利用されています。

市内区間の利用者は全体の約1割となっています。市内区間利用者は、約4割が西鉄柳川駅へのアクセスに利用しており、また、三柱神社バス停～かんぼの宿柳川バス停区間も約3割を占めています。

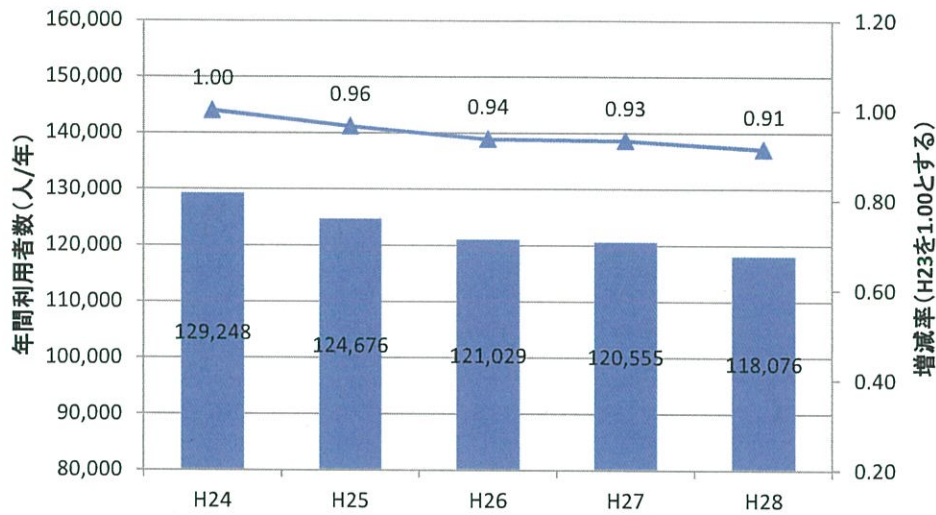


図 瀬高柳川線の年間利用者数と増減率の推移

資料：みやま市資料

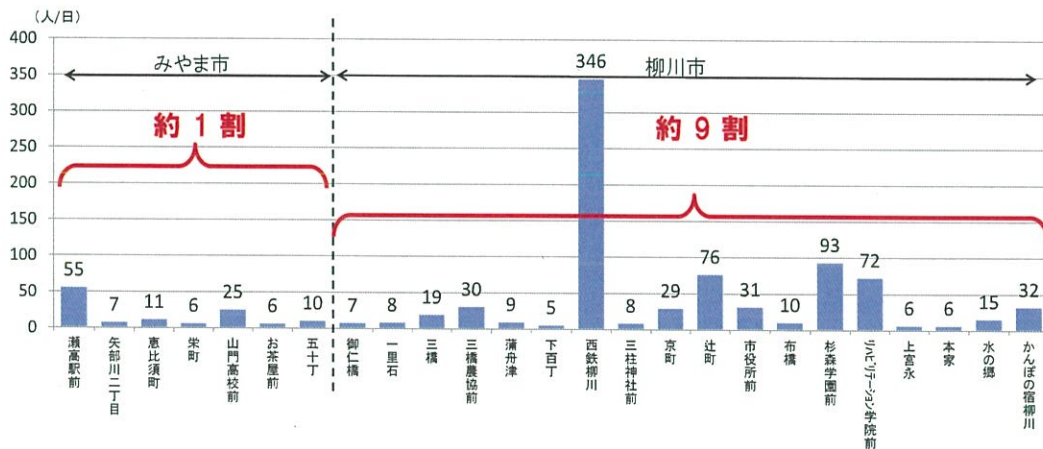


図 瀬高柳川線のバス停別日当たり利用者数

表 瀬高柳川線のみやま市区間利用者のOD特性

	みやま市内	御仁橋～下百丁	西鉄柳川	三柱神社前～かんぼの宿柳川
みやま市内区間利用者 (n=106)	13%	18%	39%	30%

資料：路線バス利用者調査

瀬高柳川線利用者アンケート結果によると、本市区間における利用者のうち、市民は約4割で、約6割が市外からの来訪者です。

市民の内訳では下庄校区(18%)や上庄校区(7%)など主に沿線地域の居住者の利用が見られます。

市外からの来訪者では柳川市在住の利用が全体の約3割を占め、柳川市からみやま市への利用にも利用されています。

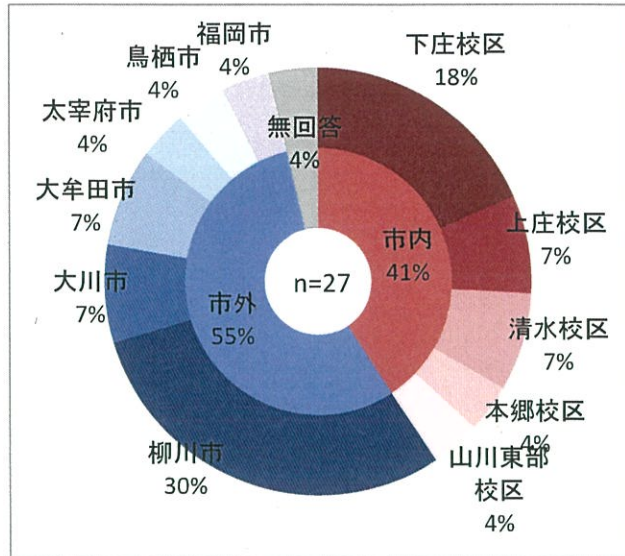


図 市内区間利用者の居住地

本市区間利用者の利用目的は、市民、来街者ともに通勤・通学での利用が最も多くなっています(市民:約6割、来街者:約9割)。市民は他にも通院にも利用しています。(約3割)

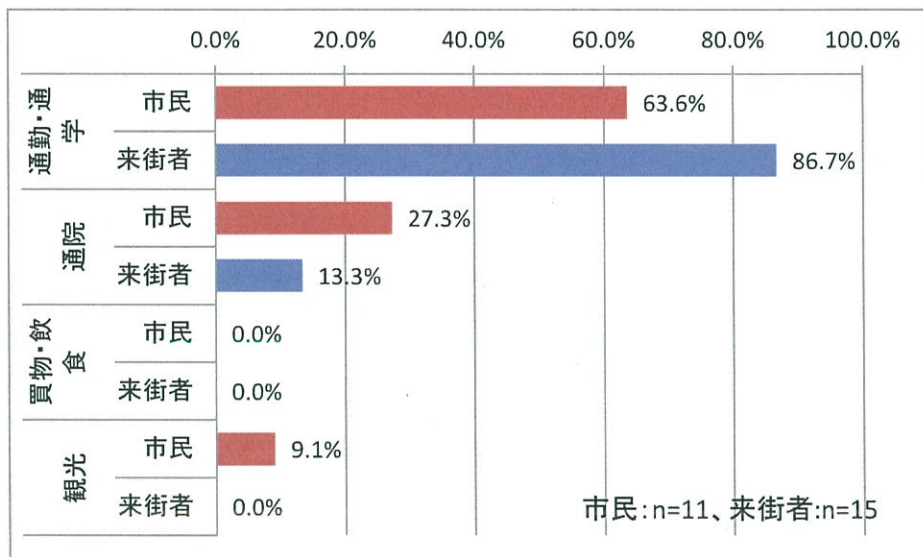


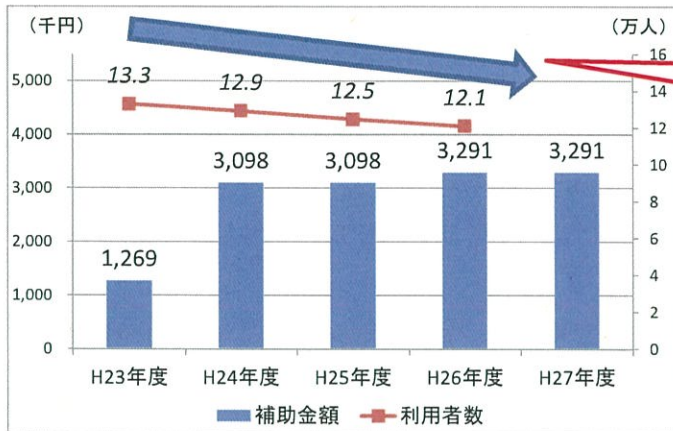
図 市内区間利用者の利用目的

資料：路線バス利用者調査

## 5-5. 運行持続性の確保の観点からの課題

### (1) 路線バスの利用状況や財政面の改善

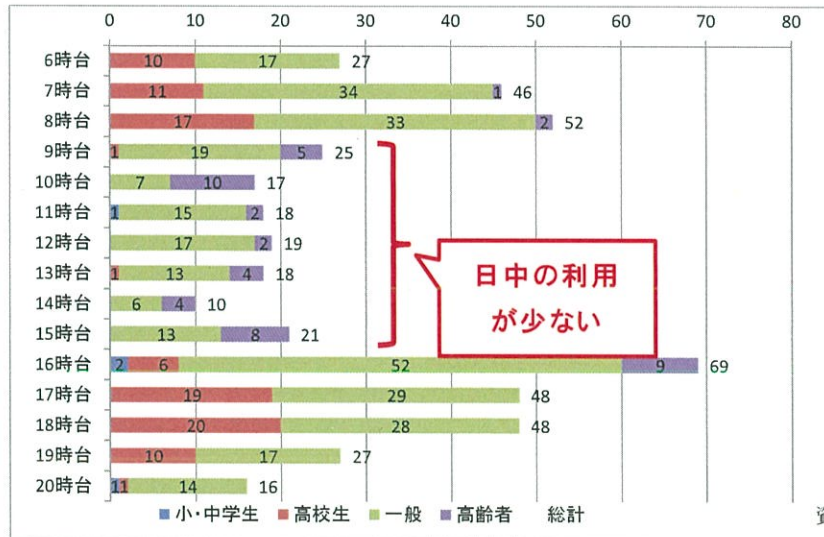
- ◆ 瀬高柳川線の利用者数は減少しており、財政負担は年々増加しています。
- ◆ 利用状況を見ると日中の利用が少なかったり、バス停近辺に商業施設や医療施設が立地しているバス停でも利用が少ないといった状況がみられます。
- ◆ 今後も瀬高柳川線を維持していくためには、効率化に向けた検討を進めるとともに、利用促進を図っていく必要があります。



利用者数は年々減少傾向が続いている

図 瀬高柳川線の利用者数と財政負担額の推移

資料：みやま市資料



日中の利用が少ない

図 瀬高柳川線の時間帯別属性別乗降者数

資料：H29 路線バス乗り込み調査

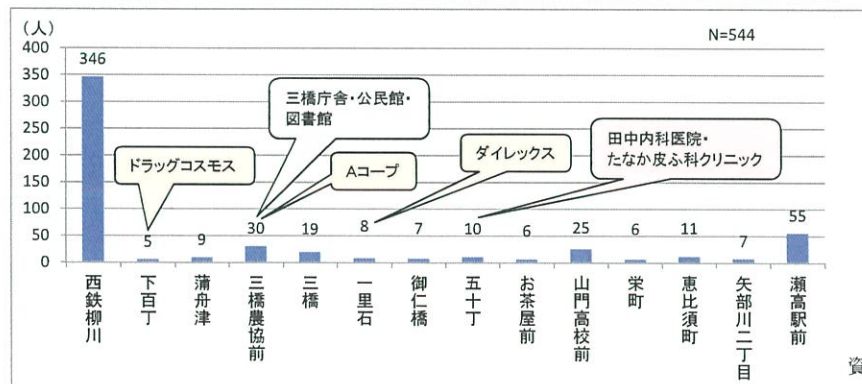


図 瀬高柳川線のバス停別乗降者数

資料：H29 路線バス乗り込み調査

**基本方針 I : 日常生活における外出先へのアクセスを確保する公共交通**

**取り組み方針 2) 市外の外出先へのアクセス性の向上**

**施策②路線バスの維持に向けた利用促進策の展開**

・今後も柳川市や西鉄柳川駅へのアクセスを確保していくために、瀬高柳川線を対象とした利用促進策を展開し、瀬高柳川線の維持を図ります。

アクセス情報に瀬高柳川線のダイヤやバス停位置、運賃などを記載



地域資源と連携した利用促進策を検討



地域資源と連携した利用促進策のイメージ (青森県八戸市)

**実施主体と役割**

市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用促進策の企画・検討</li> <li>・連携機関への打診</li> <li>・関係者間の調整</li> </ul>
交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用促進策の企画</li> <li>・利用促進策の準備・実施</li> </ul>
住民	—
地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用促進策の企画への参画</li> <li>・利用促進策の準備・実施</li> </ul>

**スケジュール**

	H30	H31	H32	H33	H34
企画・検討	企画・検討	次年度以降、新たなイベントの開催に合わせて企画検討			
連携の打診・募集	連携打診		企画に応じて随時実施		
準備	初年度はなるべく多くのアイデアを立案	準備	毎年実施		
実施			準備が整ったものから随時実施		
連携機関との協議					年度当初またはイベント数ヶ月前に実施を確認&内容の改善検討

**基本方針Ⅰ：日常生活における外出先へのアクセスを確保する公共交通**

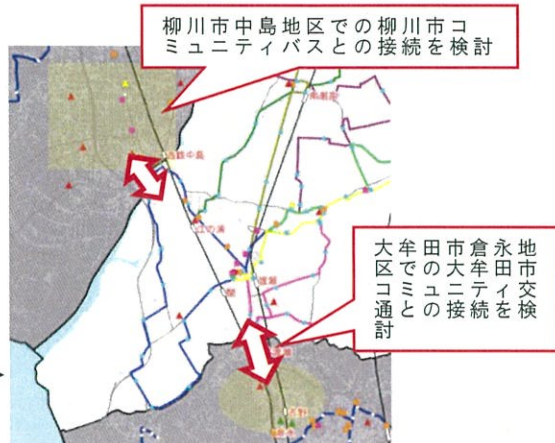
**取り組み方針２）市外の外出先へのアクセス性の向上**

**施策④周辺自治体との一体的な取り組み**

- ・ 周辺自治体と連携して、広域版公共交通マップの作成や鉄道及び路線バスの利用促進策の展開を推進し、利用促進を図ります。
- ・ 大牟田市や柳川市などのコミュニティ交通等との接続を検討し、市外への移動の確保を図ります。



◀ 複数自治体が連携して作成している公共交通マップ  
(久留米広域連携中枢都市圏)



柳川市中島地区での柳川市コミュニティバスとの接続を検討

大牟田市とのコミュニティ交通との接続を検討

▶ 隣接自治体のコミュニティ交通等との接続イメージ

**実施主体と役割**

市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周辺自治体とそれぞれの問題点・課題、今後の取り組みを共有</li> <li>・ それぞれの公共交通マップや時刻表などを共有</li> <li>・ 周辺自治体と連携して広域版公共交通マップを作成・配布</li> <li>・ 周辺自治体と連携した公共交通の利用促進策の展開の推進</li> <li>・ 周辺自治体コミュニティ交通等との接続の検討</li> </ul>
交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共交通に関する情報を提供</li> <li>・ 公共交通の利用促進策への協力</li> <li>・ 周辺自治体コミュニティ交通等との接続への協力</li> </ul>
住民	—
地域	—

**スケジュール**

	H30	H31	H32	H33	H34
周辺自治体との情報共有	各地域が抱える問題点・課題を共有				
	各自治体で作成しているマップ等の情報を共有				
広域版公共交通マップ			作成・配布		
公共交通の利用促進策				検討・実施	
コミュニティ交通の接続				検討・調整	運行